

茨城県立および私立高校の入試の総括

(読売メディアさん用レジメ)

2013年5月14日

1 私立高校

- ・ 県央も県南も、受験者数は全体に伸びた。資料通り（県立入試の推薦廃止で受験生に不安が増長し、例年より私立を複数受験した生徒が多かったため）
- ・ 入学者も増えた。各高校から聴取済み（県立推薦が無くなったため、早めに合格を決めたい受験生にとっては私立単願しか選択肢がなくなったため）

2 県立高校

- ・ 過去5年で最も広き門 1,08倍
(従来なら推薦で県立受験していた生徒の多くが私立進学に切り替えたことと前期・後期の2回チャンスがある千葉県立に変えた受験生が例年より多かったため)
- ・ しかし進学人気校の高倍率は変わらなかった
水戸桜ノ牧 1,77 水戸一 1,70 緑岡 1,65
牛久栄進 1,52 水戸三 1,50 など
- ・ 特色選抜は不人気だった
定員 1762人 志願者 1371人 倍率 0,78
- ・ 入試問題は例年より易しかった(11月に実施した県学診テストとほぼ同じ)
よってケアレスミス、取りこぼしは致命傷だった

3 特異なこと

- ・ 人気校だった県立藤代高校が定員割れと二次募集したこと
(センター試験の筑波大会場でのヒンシュクなど素行で悪い評判が流れたため)
- ・ 常総学院が入試を県立模試の役割もできる体裁に変更したこと

4 今後の展望と備え

- 通常三年間は入試制度を変更しない。すなわち
- ・ 他県と異なる一回入試（一発勝負）はまだまだ続く
特色選抜のメリットが薄いまま
(特色選抜の最大の特色は、部活動の実績が合否判定の2割程度しか反映されないこと。以前の推薦入試なら10割もあった。特色でダメでも一般で再判定の道があるが、多少とはいえ部活実績で優遇された特色受験生が、一般入試の判定で合格するケースはほとんどない)
そして進学人気校は、周辺の私立高校の特待制度に支えられて高倍率が続く
(土一・竹園は土日・常総 水戸一・水戸桜ノ牧は水城 など)
よってこれからの受験生に必要なことは
 - ・ 一発勝負に勝てる実力を作ること(時間をかけて養った力は強い)
 - ・ 県立上位校志望者は、特待ねらいの私立対策も万全にすること
 - ・ 部活動の実績と入試は無関係であり、時間と体力が有限であることを考えれば、逆に入試にはハンディと認識して両立させること。(この認識がないと部活に潰される危険あり)